

豊高SGH フェアトレード班 通信

2016年
1月18日
第28号

フェアトレードとは途上国の生産者を対等なパートナーとし適正な価格で継続的に取引してフェア（公正）なトレード（貿易）をめざす取り組み。

インドネシア研修旅行感想

参加したAさんとWさんに感想を書いてもらいました。

☆この研修旅行で日本では実際に感じられない事や知ることのできないようなことをたくさん経験できました。まず夜遅くに関西空港を出発しシンガポール空港をへて、ジョグジャカルタ空港に到着すると気候の違いに驚きました。湿度は高く気温も日本の真夏のようにでした。現地のアグスさんが空港までむかえに来てくれて、大型バスでの移動でした。街中はオートバイクであふれており日本の道路状況との違いを目に見て実感しました。

私たちフェアトレード班は現地の手工芸品生産組合APIKRIを訪問し代表のアミルさんをはじめとする組合員の方々の話を聞きました。なぜAPIKRIを設立したのか、そしてどのよ

うにフェアトレードを行っているのかなど自分たちで調べた事ではわかりきれないようなお話までたくさん聞きました。調べたことだけではなく自らコンタクトをとって直接お話を聞くことは研究を進めるに当たってとても大切だと感じました。その日はショールームで日本に持ち帰るための仕入れのサポートをして、APIKRIを後にしました。

翌日フェアトレードによって暮らしを支えられている方のもとを訪れました。そこでバティックとワヤンクリの人形で使用する皮での葉づくりを体験しました。どちらもとても時間がかかり集中力を必要とするもので公正な取引ができなければ作り手はとても損をしようと感じました。自ら経験することによってその大切さを知ることができてよかったです。これらのことをふまえてイスラム大学でのスピーチも行いました。お互い英語が母国語ではないのに一生懸命にコミュニケーションをとることで会話をすることができるのも嬉しいことでした。この研修旅行でのさまざまな体験を自分の今後に生かしていきたいと思えます。

(A)



☆一月四日から九日のインドネシア研修はとても楽しくなりました。APIKRIの創始者の方とお会いし、創業当初や二〇〇六年の地震での苦労や困難などたくさんのお話を聞くことができました。APIKRIから仕事をもらっている村を訪れ実際に経験させてもらったことは、彼らの作業の繊細さ忍耐強さを改めて実感させてくれました。イスラム大学でのスピーチはとても緊張しましたが、笑顔で学生の皆さんが聞いてくれたので笑顔ですることができました。その後イスラム大学の学生の皆さんとのデイスカッションも親しみやすく親切にお話してくれました。自分の英語の拙さを恥じてからはSPEAKINGとLISTENINGに力を入れようと決めました。



(W)

課題研究 締め切り
パワーポイント・読み上げ原稿 一二日
要旨 二五日

